KOYAALA 通信 No.6 Jun. 1 2011

「KOYAALA 通信」は、チーム・コヤーラがコヤーラ・クラブ会員に発行するニュース・レターです。年４回発行　発行日（予定）３月１日、６月１日、９月１日、12 月１日

東日本大震災の被害に遭われた皆様に、心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。
３月 11 日の東日本大震災は、日本という国や自然、人々の心に、何をもたらすのか。私たちは答えの出ない問いを問い続けています。その渦中にいた方は、何を感じ、考えられているのでしょうか？　そして、人形って何なのでしょうか？

宮城 石巻　小松剛也（イフンケ）さん　人形の展示、絶対やりたい。今がとっても頑張りたい時なのです。

初期の『ドール・フォーラム・ジャパン』をご存知の方は記憶されているであろう、関節をつけた「こけし」人形、「きぼこ」ちゃん。DFJ 誌上展で話題となり、1998 年の実作品の審査で DFJ 賞を受賞、19 号の表紙となった作品である。その作者の小松剛也さん(以降、イフンケと表示）が、石巻で被災、４日間、水のなかで孤立、生還していたことを、仙台の山野辺郁さんから聞いた。訳あって制作を長年中断していたイフンケだが、10 年ぶりくらいの突然の私の電話に驚きつつも、元気な声で答えてくれた。

この震災で、海のそばにあった石巻の実家は土台を残して全て流され、ご両親とお祖母様が行方不明となった（その後、３遺体とも発見)。父上のご遺体が見つかったばかりだった後にもかかわらず、彼は私に人形の制作を再開したばかりであり、いつも作りかけの人形を持ち歩いていると言った。「物資はいずれ潤う。体一つになった人が、目標を持てない、やる気がでなくなっていることが、一番怖い」と、彼は語った。そして、彼は人形で仕事ができるようになりたい、とはっきり言った。

●３月 27 日のメールから
人形を作ることができないでいた年月、ずうっと抱きかかえていた思いを、本当に初心に戻った気持ちで、昨年の秋から人形を作りはじめましたのです。
そうしたら、震災。
でも、作りかけの人形たちはひっくり返った戸棚の下でも、水没した車の中でも無事でした。
作り続けなってコトかな？と。私が地上のココロの花を咲かせるのに出来ることなんて、どんなもんだか分からないけど、ほんのちょっと微力でもみんなのココロの力になれるなら、そのことをやっていきたいなぁと思います。
なんか、地球の上が変わり目です。
少しでも役に立てるとイイナ。と思っています。

1998 年に取材した時は、イフンケは宮城の山奥の七ヶ宿という山村で、百合の球根栽培をしながら人形制作に取り組んでいた。その後まもなく二人の子の親となり、人形制作を中断した。昨年夏に村から離れ、実家のある石巻に引っ越し、妻とは別居した。そして秋には人形制作を再開し、月・ヨガ・ウサギをテーマに今年の５月には、七ヶ宿で展示を計画していた。その矢先、震災が彼の暮らしと家族を襲ったのである。

3・11 ドキュメント

【3 月 11 日】震災の日はイフンケは勤め先の会社にいた。激しい揺れの後、停電して情報が何も入らなくなった。母親から「6m の津波が来た」という電話が入り、子供を車で学校に迎えに行こうとしたが、学校は川のそば。そばの駐車場に車を停めて徒歩で近づこうにも、道は壊れ、水は首まで達する高さになっていたので諦めた。地面より高めに作られた駐車場では、行き場を失った 40 人くらいの人達が集まった。イフンケは車中で服を乾かしながら、カーラジオで情報を得た。町の壊滅的な情報を知り、もし子供達が生きていたら、町の学校になじめなかった子供のために、何としてもまた七ヶ宿に戻ろうと思ったという。

水は増水し続け、車も水没していく。水に浸かり続けていることに命の危険を感じ、そばの大型薬局の店舗の屋上に皆で力をあわせて移動した。屋根の上にあがると、周囲の状況がよく見え、実家のある門脇方面が燃えているのが見えた。夜になり風が強い。年寄りも子供も妊婦もいる。屋根もない寒さのなか、あるものはゴミ袋でも体にまとい、眠らないように一晩中、声掛けしながら、その夜を明かした。
【3 月 12 日】夜が明けても水は引かず、かえって増えているように見える。警察に電話が通じ、上空をヘリが飛んだり、自衛隊のカヌーが通るようになるが、水際にいる人から助けているからと言って通過。待てども助けは来ない。全員でもっと安全なところへと、気持ちが焦る。避難所の中学校も視界に入るが、泳がないと移動できない水の深さ。それに行った先で食事や暖が取れるかわからない。すると、そばのマンションの人と連絡がとれ、高いところから見て移動が可能そうな屋根のある避難場所を探してもらった。隣のオートバックスの 2 階の事務所が使えると言われ、イフンケがもう一人の人と組み、水中のシャッターを開けて、助け合って皆をオートバックスの 2 階に移動させた。暖房がないので、一部屋に皆で集まり、40 人ほどが体を寄せ合って暖を取った。
【3 月 13 日】マンションの人からの服や食料の差し入れもあった。ボランティアのボートも来るようになり、病気のある人など緊急を要する人たちから優先的に避難させ、人数が少しずつ減っていった。
【3 月 14 日】水が少し引いてきた。この日にはヘリで大がかりな救助も行われ、一緒にいた人達が大部分、救助されていった。しかし避難所の様子が伝わると、今いるところの方がましかもしれないということで、オートバックスの事務所に自主的に慰留する人もいた。イフンケも水のなかを出入りしながら情報を集め自力脱出、子供が避難していた小学校に向かい、4 日目に二人の子供と再会を果たした。
【3 月 15 日】実家の方面に向かい、変わり果てた町の姿に遭遇、行方不明の両親と祖母を探した。足が腫れて、歩けなくなってしまった。知り合いに助けを求める。

その後、復調してからは安置所を回り、25 日に父親の遺体を発見した。勤め先もなくなり、宮城県刈田郡七ヶ宿に子供と戻り、今は農作業の手伝いと子育てをしな がら、創作に挑んでいる。

チーム・コヤーラは、イフンケ展示実現に協力することにした。今年９月 13 日から 18 日まで、東京渋谷の NHK ふれあいギャラリーで日程が決定し、準備が始まっている。

震災を経て、「人形は神になっていかなければならない、となんとなく思っています。宗教とかするのではなく」と語るイフンケの夢は、七ヶ宿に厳冬に打ち勝つクリスマスローズの花畑をつくり、人形も見てもらうこと。その夢に一歩踏み出したのは、確かだ。

「今の石巻は心配したほど、気持ちが荒んでないし、みんな元気です。
これも皆様に助けて頂いたおかげです。
人々の支援に『ありがとう』と、言いたいです。」　— イフンケより

●イフンケの展示

震災後、「作りかけでもいいから人形展示をしたい」というイフンケの希望がかない、以下の予定が決まりました。
＊他にも、イフンケの展示を希望される方は、チーム・コヤーラまでお問い合わせください。連絡をとりまとめ、本人に伝え、その後は条件に応じて直接取引などの方法で進めております。小さな愛らしい作品は、販売にも向いています。

【イフンケの展示予定】
・8 月 18 日 (木) 〜 23 日（火）
「長岡哲生のフレンズ展」
一畑百貨店 松江店 5 階 美術サロン（島根県松江市）
出品・長岡哲生、西村 FELIZ、立川好江、イフンケ
問 TEL 0852-55-2523（美術サロン直通）

・9 月 13 日（火) 〜 18 日（日）
「東北—神さまたちとの復興」（仮題）
NHK ふれあいギャラリー（東京・渋谷）
出品・イフンケ
同時出品予定：伝統切り紙細工 *（千葉惣次コレクション）
* 気仙沼、石巻などの沿岸部の神社の神事に使われる切り紙は、アニミズムの系譜を感じさせる斬新なデザイン。今回の震災で海に水没した神社もあり、存続が懸念されている。
「コヤーラ・フォーラム」も同時開催予定
問 TEL 042-395-7547(HAZEKI office)

写真左：現在の七ヶ宿の自宅前の水田。夜には星空が映り込み、それは美しいそうだ。
右：震災にあっても無事だった、作りかけの「ヨガをするウサギ」。被災したアパートで、タオルを敷いて携帯電話で撮影した。

●展示支援ボランティア募集！

展示の飾り付け、撤収、宿泊提供などにご協力頂ける方を募集しております。詳細は、各連絡先へお問い合わせください。

松江展
展示 (8/16)・撤去 (8/23)　ともに夕刻
問 TEL 090-8362-6777（長岡）
東京展あ
1. 搬入 (9/12)・撤あ去 (9/18)
2. 出品者の宿泊先提供（東京圏）
TEL 042-395-7547（羽関）
email team_koyaala@yahoo.co.jp

紙上展 works of members

佐々木英俊
「雷神」
布、木毛、粘土、和紙　47cm
筋肉の表現に力を入れました。
［講評］
題材、コメントとともに、作者の意気込みを感じます。歯も作りこまれていて、ポーズも迫力があります。ただ、筋肉の動きの表現が弱いのが残念です。たとえば足の指は地面を掴むように接地すべきで、ややもすると肉の塊にしか見えず、この技法ゆえの難しさを感じます。リサ・リヒテンフェルスの技法が参考になると思います。

チーム・コヤーラからのお知らせ

●チーム・コヤーラの東北支援　満天の星空の七ヶ宿に行こう！

被災地支援は、現地でお金を使うことも効果的です。そこで、チーム・コヤーラは、７月中旬にイフンケのいる**宮城県刈田郡七ヶ宿**に、希望者で**お手伝い＆観光**に行きたいと思います。
・震災の影響で、身の回りや畑の世話などに手が回らないイフンケのお手伝いをしながら、七ヶ宿の自然を満喫、**地元のこけし産業や温泉を観光**する時間もとります。予定のなかに、イフンケとの交流会も設けます。
・「お手伝い」は、体力に応じて、家のなかの片付けや畑作業などに振り分けさせて頂きます。（**予定のうち、１日はお手伝いにあてます**ので、そのつもりでご参加ください。）あ
希望者の方と連絡をとりあいながら、６月末日までにコースと詳細をお知らせます。
期日は **7 月中旬の土日を入れた２泊３日**を予定（1 日目は移動日)。
ご関心のある方は、チーム・コヤーラ（羽関）までご連絡ください。
参加者人数に応じて、詳細予定と予算（移動代･宿泊代など）を決めさせて頂きます。
問 TEL 042-395-7547(羽関）

● Art of the Doll（ロシア / モスクワ）　第２回出品者募集

コヤーラ通信４号でもリポートをお伝えしたロシア・モスクワの国際人形展
「Art of the Doll」が本年も開催されます。10 月 28 日から 30 日まで。
出品を希望される方は、申込みや渡航手続き、現地事情について、チーム・コヤーラがアドバイスいたします。(会員のみのサービスです。)
出品は本人か代理人出席が前提です。
羽関も出席予定ですので、渡航･宿泊手配や同行を希望される方は、お申し出下さい。

●コヤーラ・フェス

毎年恒例のコヤーラ・フェスですが、今年の開催は会場を見直し、来年春に見送ります。来年は、より会員同士の相互交流が図れるように、充実化を考えています。
詳細が決まりましたら、通信とウェブサイトでお知らせいたします。

●コヤーラ・フォーラム

イフンケの東京展にあわせて開催予定です。
次号で詳細をお知らせいたします

コヤーラ・クラブ入会条件
入会金なし　年会費：2000 円 （更新時に 2 年分一括払いの方は 3900 円となります。）
年 4 回（3・6・9・12 月）のチーム・コヤーラのニュースレターとＤＭ便が届きます。

お申し込み方法
年会費 2000 円を以下の方法でご送金ください。
［郵便振替］ 通信欄に「コヤーラ入会」とお書きください。
送金先 「口座番号」 00140-7-358370 「口座名」 チーム・コヤーラ
＊ご入金が確認できたらチーム・コヤーラよりハガキで受領証と会員証を兼ねたお知らせをお送りし、次の号から「コヤーラ通信」をお送りします。更新時には、有効期限内の最後の号を発行するときに、更新のお知らせを同封いたします。

ＤＭ同封希望の方（発行月から 3 ヶ月の間に展覧会を予定されている方）
事前に枚数などお問い合わせの上お申し込みください。同封ＤＭは発行月の前月 20 日にチーム・コヤーラ必着でお送りください。
同封料金　コヤーラ・クラブ会員：2000 円　一般（非会員）：3000 円

紙上展応募の方
会員の方の人形の自作品の写真を受け付けております。
7 号〆切　2011 年 8 月 10 日（必着）
以下を下記まで、郵送かメールでお送りください。
作品写真 2~3 点（全体・アップ・裸形） サイズ：ハガキ大。
「会員番号」「作家名」「タイトル」「素材」「サイズ」他、簡単なコメントなど。
＊何点でも応募できますが、誌面の都合上掲載はお一人 1 点になります。
＊応募作品はウェブ上で公開されることもあります。（講評は紙面のみ掲載）
＊応募書類は返却いたしません。

個人情報について
頂いた個人情報はチーム・コヤーラの業務委託を受ける HAZEKI office が厳重に管理します。名簿はチーム・コヤーラのニュースレター発送に使用させていただく他、チーム・コヤーラの趣旨に沿ってＤＭクラブ会員にとって有意義と判断した情報を伝達する以外には一切使用せず、チーム・コヤーラ以外の第三者が閲覧、使用することは一切ありません。

各お申し込み・連絡先
チーム・コヤーラ
東京都東村山市久米川町 3-27-57 HAZEKI office 内
TEL 042-395-7547（担当　ハゼキ）
FAX 042-395-7975
URL http://www.ab.auone-net.jp/~koyaala/
Email team_koyaala@yahoo.co.jp

KOYAALA 通信　編集責任者　羽関チエコ (HAZEKI office)
©KOYAALA TSUSHIN 2010, printed in Japan　本紙記載の記事・写真の無断使用・転載を禁じます。

宮城　山野辺郁さん（仙台市青葉区）

作家でもあり、現在は大学で人形制作を教える立場でもある山野辺郁さん。弟子であった小松剛也さん（イフンケ）が被災したことを教えてくれたのは、山野辺さんだった。

—震災に遭われるまで、創作や発表活動はどんなことをされていましたか？
震災前の創作活動は、福岡のぎゃらりー花野への出品、教室や大学の講座用の見本の制作など。2008 年の仙台での個展以降少々のんびりと模索していました。

—震災に遭われたときは、どこで何をされていましたか？
その時は自宅仕事場にて、リメーク用の着物をほどいていました。ドアを開けた所で動けなくなりました。いまだかつてない横揺れが長時間続き、異常を感じ私はこれで終わりなんだと思いました。

—ご自身や近辺の震災の被害や、その後の影響は？
それから 3 日間はラジオ、懐中電灯、ロウソクで過ごし、水の調達に走りました。その後、都市ガスが出るまでの一ヶ月間　石油ストーブ、カセットコンロ、七輪と炭で過ごしました。食料、水、ガソリン、灯油、行列の日々でした。命があること、家があることだけで天国だと思い、沿岸部の方々に申し訳なく、じっとしていれなくてボランティアに駆けずり回っていました。友も一人亡くなり、家を流された教室の生徒さんもおり、何かしないではいられませんでした。

—震災前と後の自分に変化がありましたか？
ひと月ぶりにガスが出てお風呂にも入れるようになり、ほっとしましたが、原発は刻一刻と状況が悪くなり、精神的肉体的共に落ち込んできました。疲れも出たきたようです。

「ままごと遊び」

大学で関節人形の非常勤講師として 6 年目になります。授業が 5 月から始まり、現在は 40 名近い受講生を前に頑張らねばと思っております。

—この震災体験を通して考えたことなど
今、与えられたことに心を尽して対処すること。
今を、今日を大事に生きること。
これからの私の行く道は、人形を創りたい人のサポーターになることなのかな—などと考えております。

山野辺郁（やまのべ・いく）
1987 年　吉田良に師事
1989 年～個展、企画展多数　ぎゃらりー花野（福岡・毎年）
2006 年～東北生活文化大学非常勤講師（現在 6 年目）
仙台にて　人形工房　郁　教室主宰　　URL　http://www.d6.dion.ne.jp/~iku.y/

福島　大竹京さん（福島市陣場町）

福島に創作人形の文化を根付かせたい、と過去 6 回にわたり「ドールアート展」を主催してきた大竹京さん。5 月に東京で行われる人形展のために、福島市のアトリエで制作中に、福島の運命を左右する東北大震災が起きた。ライフラインの復活もままならない状況で、放射能被害からの避難の勧めも固辞し、大竹さんは人形の制作を続けた。そして晴れの日をむかえた東京展初日、会場で大竹さんにお話を伺った。
（5 月 25 日 「祈り　球体関節人形展Ｘ写真展」丸善丸の内本店ギャラリーにて）

—震災に遭われたとき、どこで何をされていましたか？
もちろん！ アトリエで人形を作ってました。偶然ですが、地震の 1 時間前くらいに、地震の避難の話をしていたばかりでした。地震がおきたときは、立っていられないので、柱にしがみつき観葉植物の入った棚をおさえてましたが、その棚から植物が全部落ち、花瓶やレンジが落ちたりしました。でも人形に被害は何もなかったんです。テーブルの上にあった子が、下に落ちていって、椅子の上に正座していたんです！球体人形は自分で動くから（笑）。

—ご自身や近辺の震災の被害や、その後の影響は？
一週間くらいは水道がでませんでした。自宅はブロック塀はみな倒れて、地盤沈下。近所ではマンホールは飛び出してました。家は大丈夫でも基礎にひびが入ってるので、罹災証明をもらいに行ったら、半壊だと言われました。でも津波と原発に比べたらどうってことない、という感じです。危ないので家族は、無事だったアトリエのほうで 10 日間くらい暮らしました。

—震災前と後の自分に変化がありましたか？
ある意味、私たちは一生何ごともなく終わるのかな、と思っていたら、こんなことが私の人生に組み込まれていたんだ、という感じがしました。でもマイナスばっかりじゃないだろう、プラスになることもあるだろうと思いました。大変ですが、人形が一番支えになりました。間違いなく！

震災時にテーブルの上から落ちて椅子の上で正座していた関節人形と

震災後に作られた天使の人形

だから、今後も作り続けます。今だからこそ、人形って何かの役に立つんだなって、いろいろな方から声をかけられます。
それに、震災で親を亡くした子供たちのことを考えると、大人の私たちは死ぬに死ねない。そういう子供たちが大きくなるまで頑張らなくちゃという責任をすごく感じ、援助するためのサークルにも入りました。人形制作活動を通じて、その子たちのために、少しでも助けになれればと思っています。

※本展のために作られた 10 体の天使は、震災後、アトリエに籠もって一気に制作されたものである。どの天使も目を閉じているのは、祈りの心からか。震災の被害で親を亡くした子供のために、これからもこの天使は作り続けられ、売上はチャリティーとして一部寄付される。また、同会場では被災関係者を教室としても応援するべく、急遽、選抜生徒展「未来への ' 祈り '」も開催された。出品者のなかで自宅など被災された方もいるが、この開催が大きな励みになったそうである。

大竹京（おおたけ・きょう）
1981 年に人形制作を始め、関節人形を吉田良に師事。個展や海外展への出品を経て、2000 年より全国公募展を含む「ドールアート展 in うつくしま」を隔年で福島市で開催。福島を拠点に全国に人形教室を展開。昨年より、人形製作キット「エル・プーペ」の開発も手がけている。

茨城　矢部藤子さん（石岡市上曽）

甚大な被害を受けた東北のニュースに隠れて、関東での被害は見過ごされ勝ちだった。
茨城に新しく工房を構え、本格的な活動の間もない矢部藤子さんにもお話を伺った。

—震災に遭われるまで、創作や発表活動はどんなことをされていましたか？
水戸市で行われる「いばらき人形作家 100 人展」* のために出品作を製作中で、搬入の 2 日前にあの地震が起きました。出品する予定だったのは人形の新作 1 点と、出品者が全員で競作する「仮面」です。 人形はほぼ出来上がっていて、あとは目を描き入れれば完成という状態でしたが、なんとなくぐずぐずと先送りしていました。（* 同展は開催中止になりました。）

—震災に遭われたとき、どこで何をされていましたか？
茨城は震度 6 強の揺れでした。ちょうど外にいたのですが、ゴーゴーと大きな地響きをたてて地面が嵐の海面のように波立ち、自力で立っていることができなかったので、車の屋根につかまっていました。直後に帰宅してみると、作業場の棚から落下した道具類やら接着剤やらの雑多物にまみれて、その人形が床に転がっていました。拾い上げもすぜ、その光景を長い時間ただ呆然と眺めました。人形に特に損傷はないようでしたが、目のないはずの顔が、なにか遠いものを見ているような、昨日まで目の前に置いて手をかけてきたものなのに、一瞬にして私の見知らぬものになってしまったような、なんともいえない不思議な感じにとらわれたのです。この時の感覚は今でもまだうまく言葉にできません。結局まだ目は描き入れないままです。

—ご自身や近辺の震災の被害や、その後の影響は？
停電は 1 週間ほどで全域で復旧されたようですが、断水は続きました。一般道は通れない箇所もでて、鉄道は、復旧のめどがたたないくらいの損傷。最寄駅の石岡は駅舎も壊れて立ち入り禁止。電気が復旧したあとも、しばらくは電話もネットもつながりにくく、離れ孤島にいるようでした。最近は（原発事故を含む）震災の影響が時間差で流れ込んできていて、知り合いの店が廃業したり、畑をあきらめた農家がたくさんあったり、心労で倒れた人がいたりしています。

—震災前と後の自分に変化がありましたか？　また考えられたことなど。
震災を通して考えたことは山ほどあるし、言いたいことも山ほどあります。しかし今はとにかく、この震災が、人間の本当の優しさや強さを知る機会になったということを喜びたいと思っています。

仮面を作るのは初体験だったが、予定されていた展示が中止になり、次の発表の機会を待つ。

これは道徳の教科書みたいな話ではなく、どん底の状態で見えてくるという人間の「本性」が、じつは悪意より善意、弱さより強さ、自分より他人、絶望より希望なのだと感じたこと、それを感知できた自分にほっとします。
それから、震災後、私自身に起きた最大の変化は「植物を植えたがるようになった」ことです。自然の草花は好きですが、ガーデニングや菜園に興味を持ったことはありませんでした。ところがこのごろ、なぜだか無性に植物が愛しくて愛しくてたまらず、勝手に増えてゆく雑草の様子もなぜか妙に面白くて、半日ちかくは飽きずにながめていられるのです。で、ふと、「私は命を欲しているのではないか」と思ったのです。もしかするとこれは、天敵や天災などで群れの数が急減した時、数を回復するために必死で繁殖活動をする野生生物の本能と似ているのかもしれません。もし私がもっと若ければ、妊娠しようとするのかもしれませんね。大きな木が雷や嵐で倒れた時、あるいは人間に切り倒された時、残された根元のまわりから翌春たくさんの芽が出ます。その現象を植物学の用語で「萌芽（ぼうが）」というそうですが、私の身にも今「萌芽」が起こっているのかもしれません。
20 代のとき父を不意に亡くし、「人はみんな明日死ぬかもしれないんだ」と知り、以来いつも今日 1 日だけのために生きようと決めて生きてきたのでしたが、植物はそんな私に未来への想いを与えてくれます。

矢部藤子（やべ・ふじこ）
北海道出身。独学で人形制作を始め、現在は茨城県石岡市にアトリエを構え、活動中。布の鞄も制作。個展のほか、国内・海外グループ展に出品 。今年は「とおりゃんせ」（7 月・群馬）のオルゴール展、「ドール・シンフォニー展」(7 月・京都)、「創作人形コンクール MIDOW 展」(11 月・大阪) に出品予定。

●世界から — イフンケの希望の実現を願って

イフンケの様子を伝えた HAZEKI office 発のブログやニュースレターを読んだ方から、イフンケの再起のために国内外から義援金が寄せられました。その額は総額 95122 円になりました。この資金はチーム・コヤーラに供託され、展示への実現のために使われます。
【寄付金をお送りくださった方々】
匿名希望（日本）/Arlene Navarro（アメリカ）/Olga Lachina/Ural Doll Artists Association/the Head of Fashion Design Chair in our Academy of Architecture and Arts/Russian - Japanese Culture Society(以上ロシア）

寄付金は引き続き、下記にてお受けいたします。
会員の皆様のご理解とご協力を賜れば幸いです。
寄付金送金先：ともに口座名は「チーム・コヤーラ」で；
郵便振替口座　00140-7-358370
ゆうちょ銀行　019 支店　当座　0358370
※お振込の際には、通信欄かお名前の後に「寄付」とお書き添えください。なお、送金手数料は各自ご負担のご協力をお願いいたします。

Спасибо!

イフンケのニュースに対して、ウラル人形協会はすぐに行動をおこし、チャリティー展を 4 月 17 日にエカテリンブルクで開催。その売上金から義援金が送られてきた。写真はその展示の模様。折り鶴にはメッセージが書き込まれた。他の団体からの義援金も、ロシアでのチャリティー展からのものである。